

(解答上の注意) 解答は、すべて解答题紙に記入すること。

一 次の『高等学校学習指導要領(平成三十年三月告示)』に示された「第7節 芸術 第2款 各科目 第10 書道Ⅰ」について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次は、書道Ⅰ「2 内容 A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書」からの抜粋である。空欄(①)～(③)に入る適切な語句を1～5から一つ選び答えなさい。

第2款 各科目 第10 書道Ⅰ 2 内容 A 表現

(1) 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。

- (ア) 漢字と仮名の(①)、文字の大きさ、全体の構成
 (イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現
 (ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現
 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
 (ア) ②の特徴と表現効果との関わり
 (イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり
 ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
 (ア) 目的や用途に即した効果的な表現
 (イ) 漢字と仮名の調和した(③)による表現

- (①) 1 筆勢 2 バランス 3 間合い 4 調和した字形 5 運筆
 (②) 1 文房四宝 2 用筆・運筆 3 用具・用材 4 古筆 5 古典
 (③) 1 用筆 2 余白 3 傾き 4 字形 5 線質

- (2) 次は、書道I「2 内容 B 鑑賞 (1) 鑑賞」からの抜粋である。空欄①、②に入る適切な語句を1〜5から一つ選び答えなさい。

第2款 各科目 第10 書道I 2 内容 B 鑑賞

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書の上さや美しさを味わって捉えること。

(ア) 作品の価値とその根拠

(イ) 生活や社会における書の①

イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。

(ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や②との関わり

(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化

(ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等

(エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態

① 1 効用 2 伝統 3 影響 4 基本 5 利用

② 1 書風 2 風趣 3 日常生活 4 書体の変遷 5 空間

二次の(1)～(5)の作品名と(2)・(4)・(5)の作者名を漢字で答えなさい。また、その作品の成立順として正しい組み合わせを成立順の選択肢①～⑤から一つ選び記号で答えなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

⑤	④	③	②	①
(3)	(3)	(1)	(3)	(1)
↓	↓	↓	↓	↓
(1)	(2)	(2)	(1)	(3)
↓	↓	↓	↓	↓
(2)	(1)	(3)	(5)	(5)
↓	↓	↓	↓	↓
(5)	(5)	(4)	(2)	(2)
↓	↓	↓	↓	↓
(4)	(4)	(5)	(4)	(4)

(成立順)

検査IV

書道

三 次の図版の作品「一条摂政集」について、以下の問いに答えなさい。

- (1) 傍線部①の読みを答えなさい。そのうえで、読みと同じ意味になる漢字を二文字で答えなさい。また傍線部③は読みとその漢字を答えなさい。
- (2) 傍線部②に使われている変体仮名をすべて字源の漢字で答えなさい。(順番は問わない)

- (3) 次の図版は、「二条撰政集」を書いたと伝えられる人物の真筆として残されている仮名作品である。この作品名を漢字で答えなさい。

- (4) 「ながのたろう」という平仮名の字源となった漢字を答えなさい。

四 次の(1)～(5)の画像の場所と関わりのある作品を選択肢①～⑩のうちから選び記号で答えなさい。また、その場所を地図中のA～Hのうちから選び記号で答えなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

⑩

⑨

⑧

⑦

⑥

⑤

④

③

②

①

検査
Ⅳ

書
道

検査
Ⅳ

書
道

五 次の(1)～(4)の図版は、それぞれ誰が書いた作品か。作者名を選択肢①～⑩から選び記号で答えなさい。

- (1) (2) (3)

(4)

(選択肢)

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|---------|
| ① 西郷隆盛 | ② 副島種臣 | ③ 渋沢栄一 | ④ 大隈重信 | ⑤ 齋藤茂吉 |
| ⑥ 正岡子規 | ⑦ 夏目漱石 | ⑧ 一休宗純 | ⑨ 福沢諭吉 | ⑩ 大久保利通 |

六 次の(1)、(2)の印は奥昌碩によるものである。それぞれ何と書いてあるか、漢字で答えなさい。

(1)

(2)

七 次のそれぞれの図版について答えなさい。

- (1) 次の図版の草書のように運筆が自在で、連綿と文字の勢いや変化の妙に特徴がある様式を一般に何と呼ぶか、漢字二文字で答えなさい。

- (2) 次の図版は、右の図版と作者が同じである。この作品名を漢字で答えなさい。また、これは別名〇〇帖と呼ばれている。この〇〇にあたる部分を漢字二文字で答えなさい。

八 次の王羲之に関する問いに答えなさい。

- (1) 書聖と尊称された王羲之には、その書に関わる逸話が多く伝えられており、書道用語にもなっている。次の文献は何という書道用語になったか。漢字二文字で答えなさい。

「山陰に一道士有り、好鶩を養ふ。羲之往きてこれを觀、意甚だ悦び、固くこれを市らんことを求む。道士云ふ「為に『道德經』を写さば、当に群を挙げて相ひ贈るべきのみ」と。羲之欣然として写し畢り、鶩を籠にして歸りて甚だ以て樂しみと為す。」(房玄齡等・編『晋書』王羲之伝)

- (2) 王羲之の作品には真筆がなく、原本の作品を精巧に模写する技法を使って残されている。原本の上を薄く透ける紙で覆い、文字の輪郭を囲み取り、その中を墨の濃淡や潤濁にいたるまで忠実に再現して塗り込む技法を何と言うか。漢字四文字で答えなさい。

九 次の文章は、空海の漢詩文集である「性靈集」の一節である。傍線部が「古詩を写すを以て能と為さず」という読みになるよう返り点を施しなさい。(送り仮名、振り仮名は不要)

又作詩者、以學古體為妙、

不以寫古詩為能。

書亦以擬古意為善、

不以似古跡為巧。

(実技検査上の注意)

受験番号は鉛筆で作品の左下に書くこと。作品には体裁よく落款を入れること。ただし名前の部分は「○○」とし名前は書かない。押印もしない。提出の際、作品は折り曲げないこと。

十 次の枠内の告知文をA3版のコピー紙に毛筆で体裁よく揮毫しなさい。(用紙は縦長で使用、縦書きのこと)

進路講演会

期日 五月七日 金曜日 午後三時から

会場 北部地域産業センター

講師 ワークしなの 信州みすず 主任

十一 次の文を半切二分の一の紙に、「木簡調の隸書」を基にした書風で漢字仮名交じりの書として体裁よく揮毫しなさい。(用紙の縦・横、構成は自由。ただし漢字、仮名、片仮名の変換は認めない)

風、風、吹くな シャボン玉飛ばそ ○○かく

十二 次の図版二種を半紙に臨書しなさい。

(半紙は楷書は縦長、隸書は横長で使用し、それぞれ縦書き二行で臨書すること)

十三 次の五文字を行書で半切四分の一の紙に一行で揮毫しなさい。(用紙は縦長で使用、縦書きのこと)

芙蓉作裙衩

十四 次の「本阿弥切古今和歌集」を半紙に臨書しなさい。ただし連綿はそのままに、五行の散らし書きで表現すること。(用紙の縦・横・構成は自由)

九
下
レ
二
不
以
寫
古
詩
為
能
七

八
(1)
換
(2)
雙
鉤
(填填)
墨

七
(1)
狂
草
(2)
作品名
草書千字文
千
金

六
(1)
莫鉄(鍊)
(2)
邨(村)鉞

五
(1)
⑨
(2)
①
(3)
③
(4)
⑦

四
(1)
⑤ 作品
B 地図番
(2)
① 作品
F 地図番
(3)
⑦ 作品
G 地図番
(4)
③ 作品
D 地図番
(5)
⑨ 作品
H 地図番

三
(4) 奈
(3) 加
(2) 乃
(1) 太
宇
一品経和歌懐紙
見
可
良
尔
八
曾
末
佐
留
毛
① 読み
ふみ
漢字
手紙
③ 読み
ゆみ
漢字
弓

二
成立順
④
晋祠銘
蜀素帖
西狭頌
薦季直表
牛橛造像記
作品名
太宗
米芾
鍾繇
作者名

一
(1)
①
4
②
3
③
5
(2)
①
1
②
2

検査IV
書道解答例

記号
書
番号

各1点

各1点

各1点

各1点

各1点

各1点

成立順

各1点

各1点

3点

2点

3点

2点

4点

10点

21点

2点

8点

5点

60点